

CONTENTS

春季企画展 文明開化と美作の医学	2
第73回文化講演会報告	3
洋学資料館の夏休み教室開催!!	4
友の会研修バス旅行報告・NEWS FILE	5
夏季企画展 洋書が伝えた不思議な生き物	6
資料館展示品から	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 22

September, 2018



甲斐屋バス
山西口

みづくりはな
箕作阮甫が幼少期によく通った、高野山西へ向かう坂道です。

でい
父貞固の早世によって、母子家庭となった箕作家の暮らしは困窮してしまいます。食べ盛りの阮甫は、母(清子)の妹(ウタ)が嫁いていた高野山西の高橋家を度々訪ねては、よもぎ団子やかしわ餅、大根めしを振る舞ってもらい、満足して帰っていったそうです。(津山市高野山西)

文・写真 下山純正氏



津山洋学資料館

TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



松岡 明子 先生



第73回文化講演会

「平賀源内と博物図譜」

講師 元香川県立ミュージアム学芸員 松岡明子先生

4月28日(土)、第73回文化講演会を開催しました。今回は、元香川県立ミュージアム学芸員の松岡明子先生を講師にお迎えし、エレキテルで知られる平賀源内と、高松藩で作成された博物図譜との関わりについてお話しいただきました。

先生は、高松松平家に伝来する博物図譜が、五代藩主・松平頼恭の命で制作されたもので、魚類図譜「衆鱗図」、鳥類図譜「衆禽画譜」、植物図譜「衆芳画譜」「写生画帖」の4種類13帖あることを紹介されました。その上で、幕府に献上された松平家図譜が、他の図譜にしばしば転写され、後世に大きな影響を与えたこととお話しになりました。松平家図譜は、収録図の豊富さと描写の精緻さで知られますが、なかでも「衆鱗図」の描かれ方は特徴的で、彩色を胡粉で盛り上げて立体感を再現し、鱗には金銀箔を貼り、輪郭で切り抜いて別の台帳に貼るといふ、独特の表現技法が使われているのだそうです。

また先生は、高松藩の家老が後世に記した随筆の検討や、源内の著作『物類品鑑』との比較から、当時高松藩士だった源内が図譜を監修したと考えられていることを説明されました。ただ、源内の関与を直接証明できる同時代の史料は未発見で、源内が全体的な監修者として制作を主導した、とまでは現時点では言えないのだそうです。

最後に先生は、図譜の献上本か転写本の残欠とされる魚図パネル4枚が、東京大学三崎臨海実験所で見つかったこととお話しされました。それらは、明治時代に同実験所に滞在した米国コロンビア大学の教授が持ち帰ったものと考えられ、当時所長を務めていた箕作佳吉も目にした可能性があるそうです。意外な所で津山にも繋がったことに驚きを感じました。参加された方々は、本物と見まごうほど精密に描写された美しい図譜に目を見張り、熱心にお話に聞き入っていました。

2018年は、慶応から明治へと元号が改元されて、ちょうど150年にあたります。260年余り続いた江戸幕府が崩壊し、天皇を中心とした新しい政府が樹立。時代が大きく転換していく時期です。本展では、こうした幕末から明治初年における美作地域の様子をご紹介します。

幕末の日本は、ペリー来航、開国、攘夷や倒幕運動、そして大政奉還へと続く動乱の時代でした。この時期に美作地域の洋学者や医師たちが交わした手紙を見ると、自身の近況だけでなく、社会の様々な出来事や事件などについて、自分の知り得た情報も記されています。混乱の多い中で、人々がより正確な情報を求め、伝えようとしていた様子が分かります。

明治の世になると、政府は近代化を促進するため、西洋の制度や文化を積極的に導入しました。こうした風潮は文明開化と呼ばれ、新しい考え方を紹介する書籍が多数刊行されます。こうした啓蒙書は、美作地域の旧家の蔵書にも残されていて、当時の普及具合を窺うことができます。

また、医療制度も明治になって一新されたものの一つでした。政府は1868(明治元)年に出した布告で、医師免許制度の確立に関する方針を示し、医学の研究を奨励。各地に医学校が設けられ、外国人医師を招いて授業が行われました。

津山藩でも、廃藩置県までは、有能な医師を藩医として登用していた。1869(明治2)年に大阪に医学校が開校すると、早速藩医2名を派遣して学ばせています。積極的に新しい医学を吸収しようとしていたことが分かります。あわせて、1879(明治12)年のコレラ流行の際に、津山の医師たちがどのような取り組みをしたかも紹介しました。

観覧された方は、医学教育のために用いられた、紙と胡粉でできた精巧な骨格模型や、福沢諭吉の『学問のすすめ』(展示資料は再版本)などに見入っていました。



洋学資料館の夏休み教室開催!!

□ ヒンデローペンの作品づくり

今年で9回目を迎えた夏休み教室。7月28日(土)には、親子を対象にした、オランダの伝統的装飾技法ヒンデローペンの作品づくりを開催しました。

□ 江戸時代の化学書からの実験

翌日にも一般対象の教室を予定していましたが、台風12号の影響で残念ながら中止となりました。

資料館展示室のヒンデローペンを描かれた永江絹子先生にご指導いただき、今年は木製タイルを作成しました。鳥や花のデザインを、はみ出さないように真剣な面持ちで絵付けし、額に入れて完成! 同じ図案でも、それぞれ違う、個性豊かな作品に仕上がりました。

今年には日本初の化学書『舎密開宗』を著した宇田川榕菴の生誕220年です。8月4日(土)には、津山高専、津山高専にご協力いただき「江戸時代の化学書からの再現実験教室」を開催しました。最初の実験は、津山高専の廣木一先生とゼミ生のご指導で「宇田川榕菴と電池のあゆみ200

年」と題して、榕菴も作ったボルタ式電池に挑戦。硫酸ナトリウム水溶液を染み込ませたる紙を銅板と亜鉛板で挟んでLEDを点灯させ、電気が発生する仕組みを学びました。

続いて津山高専の小延靖史先生と甲本龍平先生、SSH科学部生のご指導で「榕菴先生に学ぶせつけん」と化学のふしぎ」という実験を行いました。水酸化ナトリウムと油、水をまぜて石鹼を作り、さらにできた石鹼を色々な溶液と混ぜてその性質を確認しました。参加した子どもたちからは、活発に意見や質問が出て、充実した楽しい教室になりました。

□ 自分だけの「解体新書」を作ろう
8月25日(土)には、昨年に続いて2回目となる「自分だけの『解体新書』を作ろう!」を開催しました。

最初に仁木館長が『解体新書』刊行までの経緯や解剖図についてのミニ講演を行いました。

それから川崎医科大学現代医学教育博物館の中村信彦先生と鐵原恵子先生、川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科生にご指導いただき、人体の仕組みや臓器の役割を学んでから、本物の臓器標本を観察してスケッチし、自分流の解剖図を作成しました。

最後に紙製のエプロンに、内臓のシールを貼り付けて、臓器の位置や働きを学ぶ「臓器エプロン」作りもしました。

参加した子どもたちは、保護者と一緒に興味深そうに臓器の標本を手にとりて観察したり、自分の体にあててみたりしていました。終了後には「自分の体にも、こんな臓器が入っているのだと驚きました」「改めて人体のすごさを実感しました」などの感想が寄せられました。

友の会 第38回友の会研修バス旅行 平賀源内の故郷めぐり旅

6月2日(土)、友の会の研修バス旅行を実施しました。38回目となる今年は、18年ぶりに香川県を訪れました。午前中は庵治石の産地として知られる高松市牟礼町で、イサム・ノグチ庭園美術館を見学。うどんでお昼ご飯をとったあとは、平賀源内の生誕地・志度を訪ねました。

志度では平賀源内記念館館長の砂山三郎さん、源内先生顕彰会の近藤敬司さん、平賀一善さんのご案内で、記念館、墓所の旧宅を巡りました。エレキテルの復元や洋書収集、本草学や西洋絵画など多彩な活躍をした源内。その業績を学び、源内を育んだ志度の町の雰囲気を感じて、充実した研修となりました。



旧宅にある源内銅像の前で記念撮影



自性院常楽寺の墓所にお参り



平賀源内記念館を見学

NEWS FILE 新館開館後の入館者10万人達成

新館開館からの入館者が、10万人を達成しました。10万人目となったのは、4月30日(月)に京都府から来館された志垣陽さんで、館長から記念品を贈呈しました。



中学生、職場体験を実施

津山市立西中学校の2年生2人が、5月30日(水)から6月1日(金)までの3日間、津山市立東中学校2年生3人が、6月8日(金)と12日(火)の2日間、資料館で職場体験を行いました。古文書の撮影や銅像の清掃など様々な仕事をしてもらいましたが、一番緊張したのは見学者を前にしての展示解説だったそうです。

サントフェ友好都市の中・高校生視察団が来館

6月7日(木)、津山市と友好提携しているアメリカサンタフェ市の中学生・高校生の友好視察団が来館しました。展示を見学したのち、宇田川榕菴が植物を記録する際に用いた「葉拓」を体験するワークショップも実施しました。



博物館実習を実施

8月22日(水)から28日(火)までの休館日を除く6日間、鳥取大学4年生1人が博物館実習を行いました。資料の取り扱いや展示解説、展示企画などを学べた、と感想を寄せてくれました。



夏季企画展

洋書が伝えた

不思議な生き物



■会期：平成30年7月7日(土)～9月24日(月・祝)

現代では、動物園や水族館に行けば、様々な生き物に出会うことができます。本やインターネットで写真を見ることができません。しかし、まだ写真もなく、自由に海外へ行くこともできなかった江戸時代には、日本にいない動物たちのことを知るのには、簡単なことではありませんでした。

当時の人々は、オランダや中国からもたらされた本や絵図などで世界の情報を得ましたが、そこに描かれた、見たことのない動物たちは、人々を驚かせ、好奇心をかき立てたことと思います。

洋学者たちも、その正体をつきとめようと研究し、仙台藩医の大槻玄沢は、西洋の薬を紹介した『六物新志』で、人魚を霊薬として紹介しました。大坂の博物学者木村兼葭堂(遜齋)は、イッカクという当時解毒薬として輸入され、珍重された薬の原料が、一角獣(ユニコーン)ではなく、海に棲むイッカクの歯であることを『一角獣考』で考証。さらに津山藩の宇田川玄真、榕菴も、薬学書『遠西医方名物考』で、ジャコウネコやジャコウシカ、カストール(ビーバー)など、薬の原料となる動物について調べています。

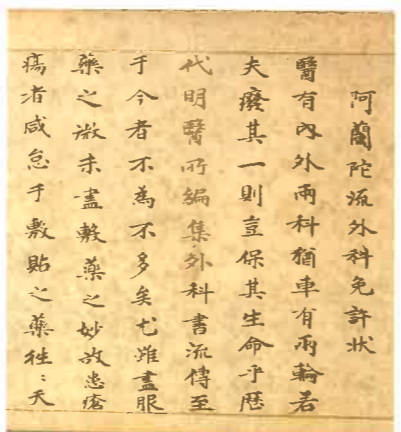
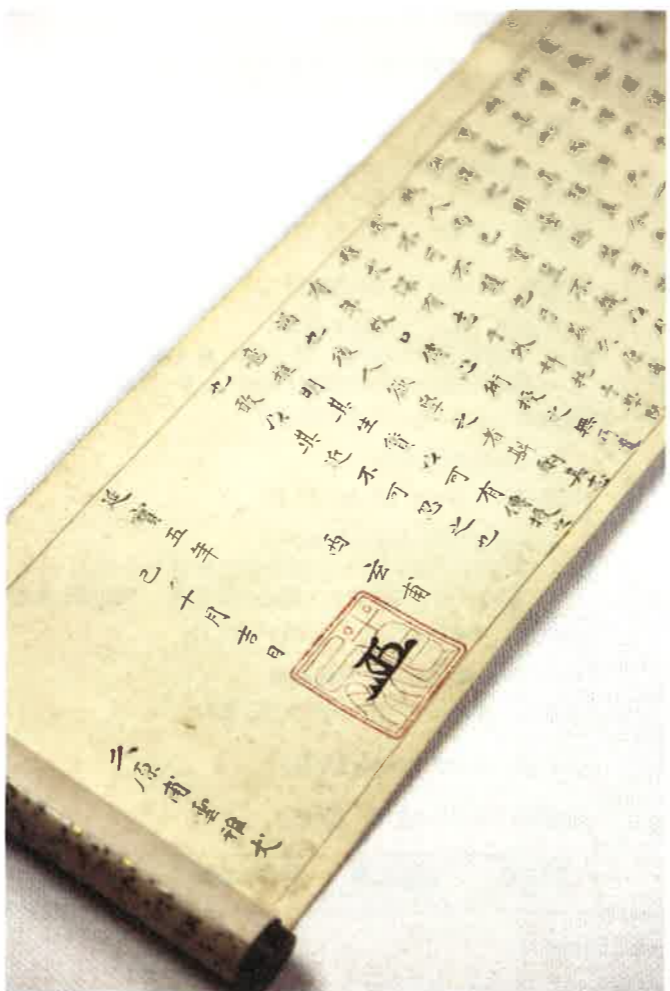
本展では、こうした洋学者たちが刊行した書籍、そして象やラクダといった舶来動物を描いた版画など約30点の資料を展示し、江戸時代の人々を驚かせた、様々な動物の姿をご紹介します。

観覧された方からは、「江戸時代の人たちは、こんな風に考えていたんだ!」「面白かった」などの感想をいただくことができました。最後になりましたが、本展の開催にあたり、画像のご提供など、ご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

資料館展示品から

『解体新書』出版以前の西洋外科の受容

オランダ 阿蘭陀流外科免許状



阿蘭陀流外科免許状の冒頭部分

杉田玄白らが『解体新書』を刊行する約百年も前に、西洋の外科術を習得した医師が津山にいたことをご存じでしょうか。

そのことを今に伝える史料が、「阿蘭陀流外科免許状」です。これは、後に津山藩医となる久原甫雲良賢が、長崎の阿蘭陀通詞(通訳官)出身で幕府医官の西玄甫から1677(延宝5)年に授与されたものです。展示品の中で一番古いものであり、全国的に見ても同種の史料は数少なく、貴重な一点です。

17世紀後半、日本の医師たちは、長崎出島のオランダ商館医のもとで西洋医療の伝

習を受け、蘭文の修学証明書を得ました。西玄甫もその一人で、「他のいかなる日本人医師の知識よりも遙かに優れており、欧州人外科医と同レベルである」と商館医らからお墨付きをもらっています。その後、玄甫は幕府に召し出され、江戸で活躍しますが、その門を叩いたのが甫雲でした。

免許状は、「医に内外両科があるのは、車に両輪があるようなもので、もしその一方を廃すれば、生命を保つことはできない」という文章で始まります。ここから、玄甫は内科と外科を同等に位置づけていることが分かります。

また、世間の医師について、「ある者は理論に詳しいが、実技を身に付けておらず、ある者は実技を心得ているが、理論を分かっていない」と評し、理論と実技の両方に精通する必要性を説いています。

当時は西洋外科を学ぼうとする医師が増えつつある時代でしたが、それだけに玄甫は体系的な医療の習得を門人に求めたのでしよう。玄甫に学んだ甫雲は、津山藩主松平宣富に実力を認められ、1708(宝永5)年に藩医となります。その後、明治維新まで久原家は代々藩医を勤めました。

文：学芸員 近都兼司

INFORMATION


平成30年度の催し物（一部予定） 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「明治150年記念 洋学資料館所蔵資料から見た 文明開化と美作の医学」 28 第73回文化講演会「平賀源内と博物図譜」 講師：元香川県立ミュージアム学芸員 松岡明子 先生 28 友の会総会 (休館日：16・23日) 	3/10~ 洋学資料館所蔵資料から見た 文明開化と美作の医学 ~6/24
5月	(休館日：1・2・7・8・14・21・28日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 2 友の会研修バス旅行 (休館日：4・11・18・25日) 	7/7~ 洋書が伝えた 不思議な生き物 ~9/24
7月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「洋書が伝えた不思議な生き物」 28 親子でヒンデローペンの作品づくり (休館日：2・9・17・18・23・30日) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 4 江戸時代の化学書からの再現実験教室 25 自分だけの「解体新書」を作ろう (休館日：6・13・14・20・27日) 	10/6~ 天を測り 地を量る ~11/18
9月	(休館日：3・10・18・19・25・26日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「天を測り地を量る」 7 企画展記念講演会「天を測り地を量る」 講師：国立科学博物館産業技術史資料センター長 鈴木一義 先生 (休館日：1・9・10・15・22・29日) 	12/1~ 美作地域の 華岡門人 ~2/24
11月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会史跡見学会 (休館日：5・6・12・19・26・27日) 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「美作地域の華岡門人」 9 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 講師：岩下哲典先生・梶谷光弘先生・下山純正先生 (休館日：3・10・17・25・26・29～31日) 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> 27 学芸員による研究報告会 (休館日：1～3・7・15・16・21・28日) 	
2月	(休館日：4・12・13・18・25日)	
3月	(休館日：4・11・18・22・25日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

平成30年度秋季企画展

天を測り 地を量る



会期：平成30年10月6日(土) ~ 11月18日(日)

秋季企画展 記念講演会「天を測り 地を量る」
講師：国立科学博物館産業技術史資料センター長 鈴木一義 先生

日時：平成30年10月7日(日) 10:00 ~ 11:30
会場：津山洋学資料館 GENPO ホール

津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

主催：公益財団法人 上廣倫理財団、津山市教育委員会
後援：文化庁、岡山県教育委員会

病とむきあう藩医たち

— 江戸の医療倫理 —

日時：平成30年12月9日(日) 13:30 ~ 15:50
講演 13:35 ~ 15:15
シンポジウム 15:15 ~ 15:45
会場：津山洋学資料館 GENPO ホール

■講演
 「病とむきあう」藩医たち その時代・環境・思想
 東洋大学文学部教授 岩下哲典 先生
 「華岡青洲が開発した乳がん手術と近代医学」
 出雲財団事務局長 梶谷光弘 先生
 「美作における華岡流門人の足跡に思う」
 津山洋学資料館元館長 下山純正 先生

— 職員の異動 —

(退職) 館長 大倉淳一
 (着任) 館長 仁木康治
 (異動) 次長 乾 康二
 (新採用) 学芸員 近都兼司

平成30年4月1日付

ご利用案内

- 開館時間 / 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 月曜日(祝祭日の場合はその翌日) 祝祭日の翌日・年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料 /

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※ () 内は30名以上の団体料金です。
※ 小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
 TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
 URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



●交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分